

三雲南小路遺跡(糸島市)

みくもみなみしょうじいせき

ここが伊都国の王の墓であると考えられている三雲南小路遺跡/弥生時代の中期後半(約2000年前)に築造された方形周溝墓/東側から見たところ



国指定史跡 三雲・井原遺跡 南小路地区

三雲南小路遺跡

—国内最大級の弥生王墓—

三雲南小路遺跡は弥生時代中期末（約2000年前）の伊弉諾王の墓で、墓の範囲は幅3〜4m・深さ0.5〜0.7mの溝が並び、東西32m、南北31mの方形区画を設けた国内最大級の弥生王墓です。江戸時代の文政5（1822）年に発見された地には、遺構の上に1.5mほどの盛りがあったとされ、墳丘の存在が認定されます。

墳丘の中央部には2基の大甕棺があり、身振銅鏡、金銅製鏡蓋、ガラス器、玉類などの装身具のほか、1号甕棺には35面以上、2号甕棺には22面以上の銅鏡が納められていました。このように数十面の銅鏡を納めとする豪華な甕棺をもつ、一定の規模をもつものは王墓と考えられ、糸島市にはこのような墓が井原遺跡王墓・早草王墓へと続き、「熊の池人伝」にある「伊弉諾にせむ王葬つ」との記述を裏付けるものとなっています。

この三雲南小路遺跡を含む三雲・井原遺跡は平成29年10月13日に国史跡に指定されました。大切に保存しましょう。
平成30年3月31日
糸島市教育委員会

"Mikuno Minamisyoji" ruin - one of the largest tomb in the Yayoi period

"Mikuno Minamisyoji" ruin is the tomb for a king of "Isokoku" at the Mid-term end of the Yayoi period (about 2000 years ago). This is one of the largest tomb for king in the Yayoi period surrounded by a rectangular area (32 m east-west and 31 m north-south), separated by a groove of 3 to 4 m width and 0.5 to 0.7 m depth.

When it was discovered in Bunsel 5 (A.D.1822) in the Edo period, there was an embankment (about 1.5 m height) above the jar coffin. So the existence of mounds on the ruin is assumed.

There are two large jar coffins at the center of the tomb, in which there were many burials such as bronze weapons, gilt-bronzed clover-leaf-shaped fittings, glass ball, beads, and so on. Furthermore, bronze mirrors (imported from China) were put in these jar coffins (35 mirrors in the NO.1 jar coffin and 22 mirrors in the NO.2).

It is supposed that tombs with magnificent burials such as many imported bronze mirror and with large tomb area, like "Mikuno Minamisyoji", were made for kings. In Itashima city, there are other tombs for kings, "Iwara Yarimizo" ruin and "Hirabaru ruin". This is a strong support for the description "There were kings for generations in the Isokoku" in "Gishi-Wajinden".

Ruins in Mikuno and Iwara area, including Mikuno Minamisyoji ruin, were designated as an aboriginal historic site on October 13th, 2017.

Please take it carefully.



三雲南小路遺跡の墳丘と区画



埋葬施設の発掘状況



逆張文清白鏡鏡



有柄中絶銅剣

国指定史跡 三雲・井原遺跡 南小路地区

三雲南小路遺跡

—国内最大級の弥生王墓—

三雲南小路遺跡は弥生時代中期末（約 2000 年前）の伊都国王の墓で、墓の周囲に幅 3~4m・深さ 0.5~0.7m の溝が巡り、東西 32m、南北 31m の方形区域を設けた国内最大級の弥生王墓です。江戸時代の文政 5（1822）年に発見された時には、甕棺の上に 1.5m ほどの盛土があったとされ、墳丘の存在が想定されます。

墳墓の中央部には 2 基の大型甕棺があって、青銅製武器、金銅四葉座飾金具、ガラス璧、玉類などの装身具のほかに、1 号甕棺には 35 面以上、2 号甕棺には 22 面以上の前漢鏡が納められていました。このように数十面の中国製の銅鏡を始めとする豪華な副葬品をもち、一定の墓域をもつものは王墓とされ、糸島市にはこのような墓が井原鎌溝王墓・平原王墓へと続き、「魏志倭人伝」にある「伊都国に世々王有り」との記述を裏付けるものとなっています。

この三雲南小路遺跡を含む三雲・井原遺跡は平成 29 年 10 月 13 日に国史跡に指定されました。大切に保存しましょう。

平成 30 年 3 月 31 日

糸島市教育委員会

墳墓の中央からは2基の大型甕棺が出土、墳丘の周りを取り囲むと考えられる周溝の一部も発見されている



三雲南小路遺跡の墳丘と区画

芝が濃くなっている部分が周溝跡/西側から見たところ



南側からその周溝跡を見たところ



これが1号甕棺の出土位置を示す舗装



参考ホームページ

<http://www.city.itoshima.lg.jp/s033/010/020/010/110/110/mikumo-iseki.html>

<http://inoues.net/ruins/mikumoshouji.html>

<http://kofunmeguriwalking.web.fc2.com/mikumominamisyoujiiseki.html>

https://blogs.yahoo.co.jp/hsnm3373/41939815.html?_yvsp=5LiJ6Zuy5Y2X5bCP6Lev6YG66Lh77yI57O45bO25biC77yJ

<http://www001.upp.so-net.ne.jp/wi12000/forGmap/html/mikumo iwara minamisyouzi et yarimizo.html>

<https://aomatsu123.blog.fc2.com/blog-entry-90.html>

<http://nekomasho-ji.sblo.jp/archives/201806-1.html>

